

学んだ成果 新聞に

神戸・星和台中「トライやる・ウィーク」まとめ

神戸市立星和台中学校（同市北区星和台1）の2年生約120人が、職業体験「トライやる・ウィーク」で学んだことを、神戸新聞社の新聞作りアプリ「ことまど」を使ってまとめている。仕事の内容や感想など、生徒が記事をパソコンで入力して紙面に。完成品は印刷して受け入れ先の事業所に贈ることもできるため、新しいまとめ方として注目されている。

（武藤邦生）

「ことまど」は本格的な新聞を簡単に作ることができるクラウド型アプリ。小中学校、高校を中心に導入が広がっている。特に中学校ではトライやるでの利用が多く、従来、手書きしていたリポートなどを切り替えるケースが目立つ。

星和台中では6月4～8日の体験を基に、一人一人が記事2～4本で構成した新聞を作っている。記事本文や見出しの入力、写真の取り込みなど、約3時間で完成させる計画だが、インターネットにつながる環境があれば、どこでも使えるため、「作業が遅れても自宅で進められるメリットがある」と木ノ下武志教諭は指摘する。

温泉施設を訪ねた山本悟士さんは「ワープロソフトで生徒会新聞の作成をしているが、それに比べて操作がとても簡単」と話し、「いろんな人に読まれるので、

受け入れ事業所に贈呈も アプリ使い

分かりやすい新聞にした」と意気込んだ。

完成した新聞は「文集」

にまとめたり、文化祭で掲示したりする。また「ことまど」は年間利用となるため、野外活動などほかの行事のまとめにも活用する予定という。



「ことまど」でトライやる・ウィークの新聞作りに取り組む生徒たち―神戸市北区星和台1―